

〔 I 〕 1983 年度 調査 報告

箱根仙石原地区永久方形区の経年調査は、1979～1983年で5年間を経過した。5年目の1983年では、方形区の地下水位は比較的安定し、湿原では、地下水位が高くなり、乾性草原では地下水位は横ばいか、やや低くなっている傾向がある。種の変化は、安定してきている。

1983年の年間変化はTab. 1～13 平面図による種の変動調査、断面図による種の変化の記録より比較・検討が行なわれた。

1. SG 501、502、511 が地下水位が上昇した。1982年はSG 505、509、510、511 が地下水位が上昇しているが、SG 511 を除き他は1983年は一定している。
2. SG 504、507、508、509、510 は種の増加があった。乾性草原では、遷移の進行がみとめられるため種の増加が多いのであろう。湿原では種が一定している。
3. 低木林やつる性植物群落でおおわれた方形区では草本植物が減少している。

1983年度は、植生調査が例年より1ヶ月ずれ8月より始まったが、やはり7～10月が、仙石原の植生動態を調査するのに適している。次年度からは、植物の秋季に入る8月より早い、盛季である7月より開始することが望まれる。

1983年度は、1979～1982年に比較し、植生の変動が少なかった。自然環境の変動がなかったかどうかの影響されたものかは、さらに経年変化による変動記載により確認され则认为られる。

—調査記録およびまとめ—

(1) 永久方形区番号：SG 501 (W 4. No. 5)

群落の特徴：草丈0.9～1.10mのノハナショウブ、サワシロギク、アゼスゲ、チゴザサ、コバノギボウシが混生した湿原。

天然記念物地域内に設けられている。ヨシが2m以上に伸びている。

1983年度増減表：

調査・月・日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+4	湿生種 Lophocolyum サワオトギリ	-2	中乾生種 クマヤナギ ヤマカモジグサ	+2
9月16日	+4	イトイヌノ ハナヒゲ	0	ヘクソカズラ ヤマアワ ヤマラッキョウ	+4
10月3日	+3	ハネゴケ	-2	オトギリソウ マユミ	+1
11月1日	0		-8	ミズオトギリ イトイヌノ ハナヒゲ ヤノネグサ	-8

方形区の変化：

季節的変化がわずかにあるが、大きな変化はみられなかった。1982年にくらべ11月が最終調査であったため、減少した種が8種と多い。

備考：

：1983年度は地下水位が5～10.5mと高くなっている。

(2) 永久方形区番号：SG 502 (W 6)

群落の特徴：ヒメシロネ、サワシロギク、ミゾソバ、アシボソ、アゼスゲなどが混生する
中間湿原。

天然記念物指定地域に接している。

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数		
	種数		種数				
8月15日	+3	湿生種 ハリガネスゲ スギナ	中乾生種 ヤマラッキョウ	-4	湿生種 イ	中乾生種 ヤマカモジグサ Cirsium sp. キオン	-1
9月16日	+2	ヒメナミキ	スイカズラ	-1		クマヤナギ	+1
10月3日	+2		ヤマカモジグサ ヤブマメ	-1	スギナ		+1
11月1日	+3	ツボスミレ	ヤマヌカボ キオン	-7	アカバナ サワヒヨドリ コブナグサ ヒメナミキ	ヤブマメ ツルマメ ナツノタムラソウ	-4

方形区の変化：チダケサシ、ワレモコウの被度がきわめて減っている。

備考：地下水位は毎年高くなっている。

(3) 永久方形区番号：SG 503 (W7)

群落の特徴：ススキが優占する草丈2mの乾生草原

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+3	湿生種 アシボン 中乾生種 ナツノタムラソウ ワレモコウ	-3	湿生種 中乾生種 オミナエシ アキノタムラソウ トボシガラ	0
9月16日	+2	アキノタムラソウ タチツボスミレ	0		+2
10月3日	+1	シバスゲ	-1	オトギリソウ	0
11月1日	0		-5	サワオトギリ アシボン アキノタムラソウ ナツノタムラソウ シバスゲ	-5

方形区の変化：

特別な湿生種はなく、種の変動も少ない。

備考：

地下水位の全体的な変化は雨季にみられただけである。

(4) 永久方形区番号：SG 504 (No. 5)

群落の特徴：ニシキウツギが茂る低木林。

ツルウメモドキ、ノブドウ、ヤマノイモなどつる植物が繁茂している。

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+7	湿生種 カセンソウ 中乾生種 クサゴケ ヤマアワ クサイチゴ ノアザミ ヌカボ クルマバナ	-6	湿生種 アメリカセンダングサ 中乾生種 ナギナタコウジュ コナスビ ヤブマメ ムラサキケマン イボタノキ	+1
9月16日	+4	ヒメシダ ツボスミレ コナスビ ウツギ	-3	ヤマアワ トボシガラ ムラサキサギゴケ	+1
10月3日	+3	ノコンギク ヤブマメ ミネカエデ	-5	スギナ カセンソウ ボントクタデ シケンダ クサイチゴ	-2
11月1日	+6	ドクダミ トボシガラ イボタノキ イヌツゲ オニタビラコ スズメノカタビラ	-2	コナスビ ミネカエデ	+4

方形区の変化：

出現種がさらに1982年以上に増加した（52種から56種へ）。種の増加、消失が多い。

(5) 永久方形区番号：SG 505 (No. 3)

群落の特徴：草丈 2.3 m のススキ、ヨモギが混生する乾生草原。

1983 年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8 月 15 日	+ 4	湿生種 中乾生種 イヌゴマ ドクダミ ヤブマメ メドハギ	- 4	湿生種 中乾生種 Polytrichum sp. トコロ スカボ ヤハズソウ	0
9 月 16 日	+ 4	マメザクラ ワレモコウ スイバ スカボ	- 1	ツユクサ	+ 3
10 月 3 日	+ 1	ヤハズソウ	- 2	イヌワラビ イヌゴマ	- 1
11 月 1 日	+ 1	Aster sp.	- 4	メドハギ タチカモジグサ ヤハズソウ ドクダミ	- 3

方形区の変化：

9 月にマメザクラが出現している。

地下水が低下し乾燥している。

種が一定してきた。

(6) 永久方形区番号：SG 506 (No. 4)

群落の特徴：草丈 1.8 ～ 2.45 m のススキ草原。

テリハノイバラ、ノコンギク、ナワシロイチゴが混生。

1983 年度増減表

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数	種名	種数	種名	
8 月 15 日	+11	湿生種 アキノウナギツカミ ヒメシダ アシボン クサレダマ 中乾生種 トダシバ ヌカボ コヒルガオ トキワハゼ ヤマカモジグサ コミネカエデ ネコハギ	-1	湿生種 ニガナ 中乾生種 ニガナ	+10
9 月 16 日	+3	タチツボスミレ ニガナ Hypnum sp.	-4	アシボン コヒルガオ クマヤナギ トキワハゼ	-1
10 月 3 日	+1	ノチドメ	-5	クサレダマ アキノウナギツカミ コナスビ トダシバ ヌカボ	-4
11 月 1 日	+1	クマヤナギ	-7	チダケサシ ヒメシダ タチツボスミレ オドリコソウ ニガナ ノチドメ トボシガラ	-6

方形区の変化：

ヤマカモジグサ、コミネカエデ、コケ類などが継続して生育しはじめた。

備考：

地下水位は 1982 年度と変化なし。

(7) 永久方形区番号：SG 507 (W 19)

群落の特徴：草丈 220 cm のヨシが繁茂する湿原。

ミゾソバ、アカバナ、ツボスミレ、ホソバノヨツバムグラや苔類がよく生育している。

1983 年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数	種名	種数	種名	
8 月 15 日	+ 6	湿生種 サワヒヨドリ 中乾生種 ヘクソカズラ ヤブデマリ ミツバツチグリ ヨメナ トボシガラ	- 6	湿生種 ミズオトギリ アオミズ 中乾生種 ノブドウ ミツバアケビ シオデ スイカズラ	0
9 月 16 日	+ 4	サワオトギリ ノブドウ ナツノハワラビ コナスビ	- 4	サワヒヨドリ ミツバツチグリ ヨメナ トボシガラ	0
10 月 3 日	+ 6	アオミズ ミツバアケビ シオデ サルトリイバラ ハリガネスゲ スカボ	- 4	ポントクタデ ヘクソカズラ ノブドウ ナツノハワラビ	+ 2
11 月 1 日	+ 3	トボシガラ スイカズラ ノコンギク	- 5	アンボソ ツリフネソウ サワオトギリ シオデ コナスビ	- 2

方形区の変化：

ポントクタデ、ミズオトギリなどが減少、乾生種が急激に多くなっている。

(8) 永久方形区番号：SG 508 (W20)

群落の特徴：ススキが被度5と優占する草原

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+8	湿生種 スギナ ツボスマレ 中乾生種 ワレモコウ メドハギ ヒメトラノオ ヌカボ カワラナデシコ ヤマヌカボ	-5	湿生種 ノハナショウブ 中乾生種 ヤハズソウ ヌカボ コナスビ コウゾリナ	+3
9月16日	+3	アシボソ ノハナショウブ コナスビ	-5	ヒメジョオン リンドウ ヒメトラノオ トボシガラ ハルジオン	-2
10月3日	+2	イヌツゲ ヤハズソウ	-2	スギナ ウマノアシガタ	0
11月1日	+1	ハルジオン	-3	アンボソ ヤハズソウ ヌカボ	-2

方形区の変化：

種の変化は特にない。1982年より増加した種が多かった。

(9) 永久方形区番号：SG 509 (W16)

群落の特徴：シバ草地

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+10	湿生種 チダケサシ 中乾生種 ヤマヌカボ コマツナギ アキノキリンソウ リンドウ、フジ テリハノイバラ グミ、スイカズラ ヤマトキシソウ	-4	湿生種 サワヒヨドリ ヌメリグサ マツバイ 中乾生種 ススキ	+6
9月16日	+5	ヌメリグサ マツバイ ヤハズソウ ノイバラ メギ	-5	チダケサシ ヤマトキシソウ イヌザンショウ コマツナギ リンドウ	0
10月3日	0		0		0
11月1日	+2	チダケサシ ススキ	-7	スギナ ヌメリグサ ヘクソカズラ ヤマヌカボ ヤハズソウ ツルウメモドキ クマヤナギ	-5

方形区の変化：種の増加が昨年より多くあった。

(10) 永久方形区番号：SG 510 (W15)

群落の特徴：ナワシロイチゴ、ネコハギなどを多くもつススキ草原。

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+10	湿生種 チダケサシ サワオトギリ クサレダマ クララ クサボケ ヤマヌカボ タムラソウ 中乾生種 スミレ ニガナ マツムシソウ	-4	湿生種 コナスビ リンドウ アキノタムラソウ ヤハズソウ 中乾生種	+6
9月16日	+4	サワシロギク アキノタムラソウ コナスビ ヤハズソウ	-4	チダケサシ カワラマツバ マツムシソウ ニガナ	0
10月3日	+1	カワラナデシコ	-2	コウヤワラビ クララ	-1
11月1日	+2	ヒメジョオン ニガナ芽生え	-7	クサレダマ ヤマヌカボ メドハギ タイアザミ アキノキリンソウ ヤマヌカボ ヤハズソウ	-6

方形区の変化：

1982年より湿生種が3種増加した。

全体に増加種が多い。

(1) 永久方形区番号：SG 511 (W8)

群落の特徴：ヨシを伴うサワシロギク、チゴザサ、アゼスゲが優占する中間湿原。

1983 年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8 月 15 日	+1	湿生種 オニスゲ 中乾生種	-6	湿生種 Loyphocolyum 苔類の1種 コジャゴケ ヒメジョオン 中乾生種 ミヤコアザミ キンミズヒキ	-5
9 月 16 日	+2		-2	コウヤワラビ ヒメナミキ	0
10 月 3 日	0		0		0
11 月 1 日	+3	ヒメジソ Loyphocolyum Hypnum	0		+3

方形区の変化：

種の変化が少ない。苔類、蘚類が11月に出現している。

備考：地下水位が高い地域、1983 年は高くなっている。

(12) 永久方形区番号：SG 512 (W 9)

群落の特徴：ウツギ、ハコネダケ、フジ、アズマネザサが優占する低木、ササ草原。

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数		種数		
8月15日	+3	湿生種 中乾生種 タイアザミ イボタノキ ウツギ	-9	湿生種 中乾生種 ゴウソ ツユクサ サワオトギリ ヤマアワ コブナグサ ヒメジソ イヌツゲ ヨモギ スギナ	-6
9月16日	+2	サワオトギリ シオデ	-5	クサレダマ タイアザミ コウヤワラビ ノイバラ クマヤナギ	-3
10月3日	0		-1	シオデ	-1
11月1日	+2	クマヤナギ ノアザミ	-7	サワオトギリ カタバミ アシボソ オカトラノオ ホソバシケンダ ヤマノイモ チダケサシ	-5

方形区の変化：

季節的な変化（8月、11月）以外は種の変化は少ない。

備考：出現種数が少なくなり、種の生育が安定した。

(13) 永久方形区番号：SG 513 (W10)

群落の特徴：フジ、ツルウメモドキ、ヘクソカズラ、スイカズラなどのつる植物に、方形区がおおわれている地域。

1983年度増減表：

調査月日	増加した種		減少した種		増減数
	種数	種名	種数	種名	
8月15日	+1	湿生種 中乾生種 オオハナワラビ	-3	湿生種 中乾生種 イタドリ リンドウ アブラチャン	-2
9月16日	+3	ドクダミ マユミ イタドリ	-1	オカトラノオ	+2
10月3日	+3	ガマズミ ノイバラ	-2	ドクダミ マユミ	0
11月1日	+2	ワレモコウ サルトリイバラ	-3	ガマズミ ヤブマメ テンニンソウ	-1

方形区の変化：

種の変化は少ない。

備考：地下水位は1.7～2mに一定してきた。